

6) コミュニティ分野

○ 地方分権改革が目指すべき分権社会においては、地域における自己決定と自己責任が重要となる観点から、住民と行政とのかわりがかかわりがこれまで以上に重視されることとなります。コミュニティ分野では、現在ある公共的施設を活用しながら、各地域の特徴を活かした地域づくり、自治会組織等(コミュニティ)とのパートナーシップの確立のほか地域の声が反映される仕組みづくりを推進します。また、ボランティア団体やNPO(民間非営利団体)などの様々な活動が盛んな都市づくりを目指します。さらに、お互いが人権を尊重しあい、思いやりのある人にやさしいまちづくりを目指すとともに、男女が対等なパートナーとしてあらゆる分野に参画できる男女共同参画社会の形成を促進します。

(基本目標)

① 住民・自治会組織・企業・ボランティア団体・NPO(民間非営利団体)などと行政との協働による都市づくり

・新市は、住民と行政がパートナーシップの確立を図り、情報の共有化を行いながら、住民や自治会組織、ボランティア団体、NPOその他民間セクター(民間企業等の営利部門)とも協働し、相互に連携して都市づくりを推進します。

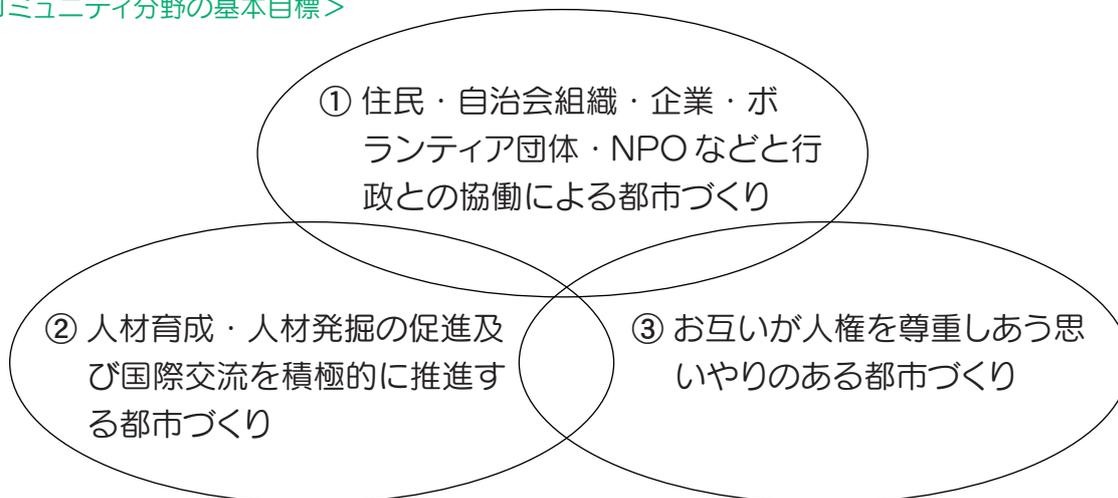
② 人材育成・人材発掘の促進及び国際交流を積極的に推進する都市づくり

・新市は、都市づくりの専門家や高齢者の技術と豊富な経験等を活用するとともに、広く都市づくりに住民参画の場を開くなどし、国際化に柔軟に対応できる人材育成や地域のリーダーとなる人材発掘を促進します。また、鹿児島空港が立地する特性を活かして、多種多様な交流活動を推進し、グローバルな時代にふさわしい新たな国際交流を推進します。

③ お互いが人権を尊重しあう思いやりのある都市づくり

・すべての人が人間として尊重される、人権の確立した社会づくりを目指します。また、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分発揮し、社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動に参画することができる男女共同参画社会の形成を促進します。

<コミュニティ分野の基本目標>



7) 行財政分野

- 地方分権一括法の施行により、国及び県から市町村に権限移譲が推進されつつあり、自治体の自己決定、自己責任の原則のもとに、効率的な行政運営を図ることが求められています。新市においては、地方分権に対応するために、健全で自立した行財政運営、開かれた行政の推進、質の高い行政サービスの提供を図る都市づくりを目指します。

(基本目標)

① 健全な行財政運営を進める都市づくり

・新市は、計画の実効性を向上させるため、行政評価制度等を導入するとともに、自主財源の確保に努め、限られた財源の重点的・効率的配分を図ります。また、民間と行政の連携・協力を図り、それぞれ適切な役割分担をしながら、都市づくりへの民間活用を図り、効率的で活力のある行政運営を推進します。

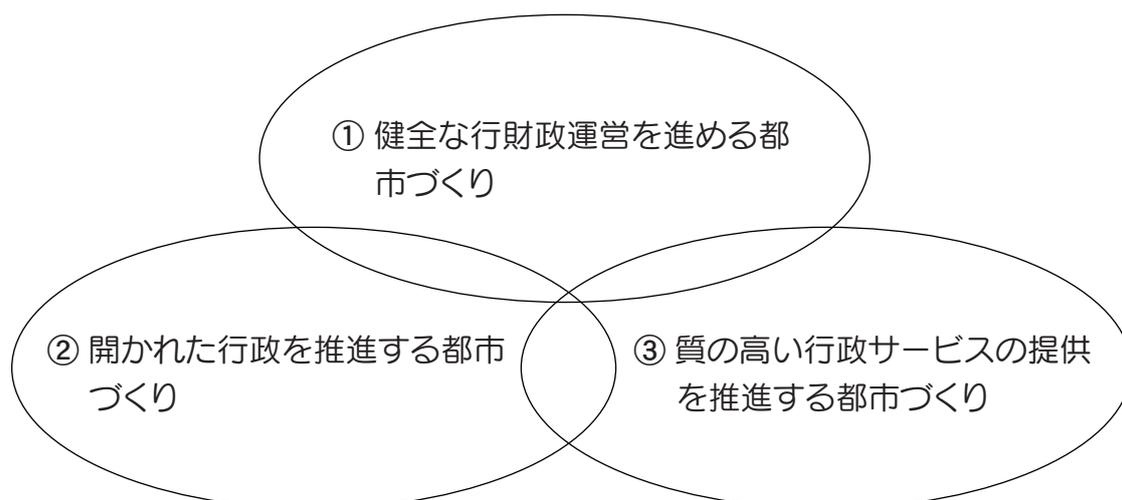
② 開かれた行政を推進する都市づくり

・新市は、情報公開制度の円滑な運用と、行政の広報手段(広報紙、ホームページ、ケーブルテレビ等)の積極的な活用を図り、市民への情報提供を行うとともに、透明で開かれた行政運営を推進します。

③ 質の高い行政サービスの提供を推進する都市づくり

・新市は、各種行政事務や行政情報の電算化・ネットワーク化を図り、適切なサービスを住民に提供できるように電子自治体を推進するとともに、住民とのふれあいを大切にし、住民の視点に立った成果指向型の行政運営など新市にふさわしい質の高い行政サービスの提供を推進します。

<行財政分野の基本目標>



3) 地域別振興方向

新市のまちづくりゾーンの方向性

新市の自然、産業、教育文化及び土地利用等の特性を活かした調和ある発展をめざすため、これまでの地域の歩みを尊重しつつ、新市を大きく、3つのゾーンに分け、次のように振興を図ります。

① 自然交流ゾーン

「豊かな自然や美しい景観を保全・継承し、住む人、訪れる人が癒されるゾーンの形成」

・霧島山系の国立公園と1市6町の間山麓一帯を自然交流ゾーンとして位置づけ、豊かな自然や美しい景観を保全・継承し、希少価値のある動植物の保護に努めるとともに、森林については、水源かん養としての大切な機能も活かしながら、これらの魅力を住む人だけでなく、訪れる人々までが享受できる、心休まる癒しのゾーン形成を図ります。また、温泉や雄大な自然を十分に活用して、霧島山麓から錦江湾・桜島が一望できる大パノラマ地帯での観光保養的要素やアウトドア・レクリエーション的要素、滞在型リゾート的要素を包括するゾーンとして活用を図ります。

② 田園文化交流ゾーン

「自然環境や文化と共生する交流・体験地域として農業と観光のふれあいのある田園ゾーンの形成」

・空港周辺を人とももの交流拠点として、中山間地域一帯を田園文化交流ゾーンと位置づけ、農業と観光の振興、歴史・文化の振興を図りながら、実り豊かな自然と文化が共生する交流・体験地域として整備を図ります。また、田園地域の魅力を維持しながら、日常生活圏としての利便性を確保し、新市中心部のベッドタウンとしての整備に努め、生活と産業がふれあい、調和のとれた交流地域として整備を図ります。

③ 錦江湾多機能都市交流ゾーン

「都市機能を充実し、にぎわいと躍動感あふれる市街地とマリンゾーンの形成」

・人口増加が見込まれる国分平野一帯を錦江湾多機能都市交流ゾーンと位置づけ、都市機能の充実を図るとともに、居住環境やスポーツ・レクリエーション環境等の整備を進め、にぎわいと躍動感あふれる交流拠点都市づくりを図ります。また、錦江湾沿い一帯は、静かで穏やかな内海としての特徴を活かしたマリンゾーンとして、整備を図るとともに、港湾事業や漁業等の振興を促進します。

新市のまちづくりの軸の方向性

新市地域内外の人やものの活発な交流を促進するために、2つの連携軸を設定します。

●広域連携軸

・ 空港、九州縦貫自動車道、東九州自動車道を中心とした軸を広域連携軸と位置づけ、九州南部と九州北部の人・ものの交流を促進し、新市の生活の向上や産業の振興を図る重要な基軸とし、周辺地域である鹿児島市や熊本、宮崎といった地域はもとより、各地との連携を強める軸とします。また、各ゾーン間の連携を強化するために、軸を中心に民間投資を含めた施設の整備を推進します。

●地域連携軸

・ 旧市町の市役所や町役場を中心とした地区を地域拠点とし、各地域間の交流・連携を推進することにより、新市としての機能強化を図っていく軸として、地域連携軸を設定します。また、各地域拠点における各種施設や行政サービスを向上するため、軸を基本に各種施設の適正な配置を図ります。

4)土地利用構想図

